

第2回 第5期石狩市農業振興計画策定委員会 会議録

日時 令和3年10月28日(木)9時30分～11時50分  
場所 石狩市役所第1委員会室(5F)  
出席者 小林国之委員長、木村邦博副委員長、熊倉聡委員、新居久美子委員、久慈貞子委員、  
大内幸二委員、寺西範晃委員、加藤光治委員、菅野哲哉委員、羽田美智代委員、  
長良幸委員、江崎幹夫委員  
事務局 企画経済部産業振興担当部長 本間孝之  
農政課課長 水野智之、農政課主査 袴田正、農政課主査 永澤幸城、  
農業委員会次長 吉田雅人、農政課主任 大川ありさ  
欠席者 八木沼英晃委員、阿岸哲広委員  
傍聴者 0名

次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 農業経営に関する意向調査結果について
  - (2) 第5期農業振興計画(素案)について
3. その他
4. 閉会

=====審議内容の記録(審議経過、質疑、意見等)=====

※ 以下の質疑・意見については、○委員発言要旨、●事務局発言要旨

1. 開会

2. 議事

(1) 農業経営に関する意向調査結果について(※事務局より説明)

●(袴田主査) 調査対象330名中139名。回答率42.1%(前回372名中142名 38.2%)。

We b活用で回答率アップを目指したが、We b回答数44件で効果は多少。アンケートの集計結果について設問ごとに説明。(資料2)

【質疑・意見】

○(長委員) 石狩市でスマート農業の可能性がどの位あるのか。

○(小林委員長) アンケートをどのように読み取るのかで回答頂きたい。

●(水野課長) 既に導入済みでドローン、GPSの活用がウエイトを占めている。農業改良普及センターの力も借りながら、施設園芸に係るデータを取得し携帯アプリで活用できるような取り組みを行っている。中小規模の活動が多いので、規模に見合ったICT活用等に重点を置き検証していきたい。青年部でもロボットの実装検証、ドローンの進化も検討していくと伺っている。

- (小林委員長)細かい内容は素案でつめていけると良い。
- (長委員)人手が不足していると聞くが通年なのか、スポットなのか。
- (小林委員長)こちら素案でつめていきたい。年齢や性別などのアンケート結果は地域農業の実態と合っているのか。
- (水野課長)実態と大きく変わらない。60歳以上が60%以上を占めており、アンケート結果の構成も大きく変わらない。親元就農等で若干の若返りがある。
- (加藤委員)Web回答は40%だったか。
- (袴田主査)44件。
- (寺西委員)年代別で希望していることが違うと思うので特徴があれば教えてほしい。
- (水野課長)労働力不足、補助事業活用が出来ない等総じて同じような意見。今後スマート農業を導入して省力化を目指したいと考えているものと捉えている。
- (熊倉委員)若い人の回答数が少なすぎる。年配が主。若い人の意見を取り入れないと計画にならない。50代とそれ以下で分けて見たい。スマート農業は若い人の意見を聞かないとならない。
- (小林委員長)若い世代はアンケート結果以上にスマート農業へのニーズが高いということか。
- (熊倉委員)規模拡大したい人はそうだと思う。現状維持の人はスマート農業に興味がない。年配の人の意見も大事だが、年配者は現状維持の声が多い。
- (羽田委員)農業者1人に対して1枚で、世帯に2枚配られるところもあるのか。
- (袴田主査)1世帯に1枚。
- (羽田委員)スマート農業をやるには未来を見据えないと使いこなせないのではないか。細かいアンケート結果が見えないので、細かい調査結果がほしい。
- (小林委員長)年齢別や農業形態別など細かいアンケート結果の集計を検討して頂きたい。
- (加藤委員)Web回答者の傾向も見たい。未回答者の希望も見えないと議論できないのでは。
- (水野課長)ご指摘いただいたアンケート結果の詳細が整い次第提示する。また、現在、国はスマート農業加速化実証プロジェクトを進めているので、それらを含め本市に見合ったスマート農業を推進する形で、計画に反映していきたい。

## (2) 第5期農業振興計画(素案)について(※事務局より説明)

- (袴田主査)経営意向調査、国や道の計画、SDGsを踏まえ見直した。第4期計画から第5期計画に向けて大きく変更はない。本日の委員の皆さんからの意見を整理し、計画の最終形を作りたいと考えている。文章、文言の体裁など調整を必要とする箇所は次回までに調整する。計画素案について項目ごとに説明。なお、計画期間については、SDGsの観点や産業振興関連計画との整合性も考慮し、第5期計画案では10年間としていることを説明。(資料3)

### 【質疑・意見】

目次Ⅰ~Ⅲ

- (加藤委員)脱炭素社会と農業との関係はどうか。

- (小林委員長)カーボンニュートラルは国としても農業としても大事なので、10年計画の場合は1文では弱いのでもう少し盛り込みたい。市の他の計画との兼ね合いもあると考える。
- (木村委員)さやえんどうは共選体制を組んでいるので面積は減っているが、反収は高いので残していただきたい。
- (長委員)新規就農と新規参入を同じ文章で出すのはいかがなものか。大規模、小規模の連携を石狩市では活かしていけるのではないか。
- (小林委員長)多様化の明確さが大事かと思う。基本事業の中身と関連させて議論したい。

#### 目次IV

- (加藤委員)雇用労働力の状況で不足しているパーセントが少ないのではないかと思うので、実態を知りたい。
- (木村委員)収穫作業が集中する6月下旬~9月下旬の3ヶ月が不足している。65歳~70歳の労働者が多く、1人前に満たないという点でも不足していると言える。
- (加藤委員)十分な人数と足りているは違うので不足していると言える。
- (羽田委員)短時間労働を希望する年配者が多い。花川は高齢化で在宅率も高く、家庭菜園も多いので上手くやれば雇用を生み出せるのではないかと思う。
- (木村委員)長時間労働者と短時間労働者で農業者とのマッチングを図りたい。
- (水野課長)アグリケーション事業では若い方が都市部から30名程来ており評判が良いことから、来年度もトライアル的に実施し拡充していきたい。
- (羽田委員)基本方向3の「環境と調和した持続可能な農業の展開」をトップにしてもよいのでは。バイオマスがなかなか展開しないが、木材チップの取り組みとの連携はどうか。個別具体的に方向性や利活用を明記できないか。
- (長委員)環境保全型農業とみどりの食料システム戦略の説明を小林委員長からお願いしたい。
- (小林委員長)EUが2年前に打ち出した方針に合わせ、日本が世界に発信した戦略。農業では化学肥料、農薬を削減し有機農業を増やす方向性を提示している。地球環境に配慮した持続可能な農業を行うという事でこれまでの延長線上に近い。木質バイオマスは林業と近いので、環境保全型農業との連動性は難しいのではないかと思う。
- (熊倉委員)地産地消推進の学校給食の地場産品の使用頻度はどのくらいか。PRがもっと必要。石狩は魚も肉も野菜もあるのでもっと子どもに広めて、将来の職業の選択肢に入れてほしい。
- (水野課長)お米は100%石狩産米。全体では55%が石狩産。
- (吉田次長)石狩食材を使ったいしかりデーを行っている。
- (菅野委員)とれのさとの向かいの小学校の児童なのに、石狩産の野菜を買える場所を知らなかった。子どもにもわかりやすい計画になればと思う。
- (水野課長)現計画と同時進行で策定する食育推進計画で、全体的に伝わるよう盛り込みたいと思う。
- (江崎委員)労働力の部分でこれからはシルバーを使っていくと良いのではないかと思う。グリーンツーリズムのところでは、「農泊」ではなく、「農村の文化、歴史を活用した農泊」として頂け

るとわかりやすいと思う。

○(小林委員長) 農泊は国の用語なので説明があってもいい。

○(新居委員) 鹿の出没が多い。クマの出没も怖い。

●(水野課長) 石狩市の鳥獣被害防止計画に詳細がある。高齢者雇用について、シルバーの文言については農協の意見を聞きたい。

○(木村委員) 高齢の方でも元気な方も多いので、高齢者、シルバーという文言は入れなくても良い。働ける方とお手伝いの方を色分けし、給与とお礼金で分けるなどの対応が良いと思う。

○(大内委員) 高齢者限定募集はしていないので明示しない方が良い。

○(小林委員長) 農業としてどのような労働力が必要で、市民はどのような働き方をしたいのかを見える化し、つなげていけると良い。

○(久慈委員) 鹿、アライグマなど国道に出てきて夜道が危険。その辺をどうにかしてほしい。

●(水野課長) 市の鳥獣被害防止計画については、主に農業被害防止のためのもの。国道の対策については道路管理者に要望を図っていく必要がある。獣害は増えており、厚田区では特にアライグマが増えている。対策を講じてはいるが繁殖力が強く追いついていない状況。今後も対策を講じていく。

○(大内委員) 意向調査の回答率が42%でこのような話し合いはどうかと思う。北石狩では12月に厚田70人、浜益40人の営農計画の受付があるので、スケジュールが間に合えば意向調査をもう一度できるが。

●(水野課長) パブリックコメントなどの今後の予定を加味するとこれからの意見聴取は難しい。JA石狩では夏に全組合員の意見聴取を行っているとの事。各農協から提供頂けるような意見やデータはないか。

○(木村委員) 使える部分は提供できる。

○(大内委員) 会議始まりでスマート農業のアンケートを取るなど行っているのでは、その情報提供は可能。

●(水野課長) 可能との事で、情報提供いただければアンケートとは別に計画の要素に盛り込んでいけると良い。

○(小林委員長) 次回素案までに各委員が現場の意見をくみ取って頂き、計画に反映できると良い。

○(寺西委員) 現状、輪作が少ないので、緑肥でひまわりを植えるなど地力の維持を計画に盛り込めると良い。

●(水野課長) 生産性向上のための分野として良い形で追記したい。

○(小林委員長) 減農薬、減化学肥料は地力あつてのことなので、ここかクリーン農業の所に入れると良いのでは。

○(加藤委員) とれのさとや道の駅が出来てから、札幌市民を含め情報発信している部分は評価できる。翔陽高校でも食育として石狩の農業について勉強していることが新聞に出ていた。市民や新港企業など、農業と接する機会を増やしていけたら良い。また、市にもお願いしたいが令和4年の予算から取り組めるものは予算を確保して早急に取り入れて頂きたい。

○(菅野委員) 現在、市のふるさと納税では470種類あり、その内農水産物が400種類、内半分が農畜産物。特に水産物の加工品に人気がある。農産物では米、ジャガイモ、ミニトマト等が人気であるが、加工品が少ない。石狩ブランドで付加価値をつけて売れると良い。例として名寄では星空雪見ほうれん草があり、名前でも付加価値を付ける事も大事では。また、「検討します、図ります、推進します」は今後の展開、見方の違いか。

●(水野課長) 元々の振興計画で盛り込んでいる言葉がベース。我々としても次回までに整理し、示していきたい。「支援する事、推進する事、検討する事」を整理します。

○(羽田委員) 地産地消の推進について、一般市民が利用できる調理、加工施設がなく、とれのさつを使うこともあるが制限があり、コミュニティセンターも日程が埋まっていたり、スペースが足りず借りづらい。10年計画にするのであれば公共施設が必要ではないか。

●(水野課長) ハードの整備となると10年計画で盛り込むにはハードルが高い。農泊の交流施設で漬物体験など昨年からはじめたり、公大連携で藤女子大学との包括連携協定を結んでいるので可能性を模索していきたい。可能な範囲で今ある施設を利用しながら、追加で新たな施設の活用も検討したい。

○(長委員) 脱炭素の動きが農業でも必要だが、炭素貯留が減化学肥料につながっていき、地力が上がることで収益にもつながる。石狩市での取組について積極的な取り組みをすると石狩市の農業の魅力が上がるのではないか。

●(本間部長) 脱炭素は農業に限らず、すべての取組に係ってくる。環境の計画、地球温暖化の計画など、それぞれの分野で意識を持って脱炭素に取り組んでいく。農業振興計画のなかでどこまで盛り込むかにもよるので、様々な計画があるので主たる計画、付随する計画、どこで盛り込むかを委員長にも相談しながら進めていきたい。

○(小林委員長) アンケートの中で基盤整備に対して継続的なニーズがあり、GPSトラクタやリモートセンシングをやっていくためにも基盤整備が不可避。スマート農業についてはずっと変わらない文言が載り続けている。地域農業の基盤整備の必要性を認識していることを計画に盛り込む必要がある。

●(水野課長) 基盤整備については、今後も推進していくことは間違いない。現状、「しておけば良かった」という声が「整備されていない」地域で聞かれる。基盤整備は国の補助事業がないとできない現状もあり、未開拓地もある。農地の利活用をどの様に図っていくかを農協とも検討する中で、基盤整備の推進という意味が込められている。スマート農業が良いのか、基盤整備をどうするかが良いのか文言を検討していきたい。

○(木村委員) 市外、道外への販路の拡大が海外よりまずは必要。米の価格が下がってきている現状もあり、今後引き上げる必要がある。海外に捉われず、石狩の都市近郊、道内の販路も広げたい。また、連動して、フードマイレージについては輸出コストを下げるという言葉として使っているのかもしれないが流通の縮小という事で相反する。

●(水野課長) 道内外の販路拡大に加え、海外に向けた検討をするという方向性。その中で、お米に特化した要素を入れた方が良いという事か。

- (木村委員) 今後どうなるかはわからないが、米に特化できると良い。
- (水野課長) 米余り問題もあるが、農産物全体の販路拡大を考え記載することが適していると考えるがどうか。
- (大内委員) 良いと思う。
- (水野課長) 前段に米余り問題が課題になっている事を記載する形でどうか。
- (木村委員) 現状に追加する方向で良い。
- (水野課長) 次回にはある程度形になった計画案をお示しし、進めたい。
- (小林委員長) 委員の皆様には意見があれば事務局によせて、計画に反映できるようにして頂きたい。
- (水野課長) キャッチコピーとプラン名については11月5日頃までに事務局に報告頂きたい。

### 3. その他(※事務局より説明)

- (水野課長) 次回の開催日程について

次回会議は12月2日(木)9時30分～12時00分 401会議室での開催を予定している。調整をお願いしたい。

### 4. 閉会

令和3年11月22日 議事録確定

第5期石狩市農業振興計画策定委員会

委員長 小林 国三